

学習成果の結果と判定

<ファッション総合学科>

建学の精神に基づき、教育目的・目標を定めており、この教育目的・目標の達成度を学習成果とし、その査定は下記の指標で行う。

○ファッション総合学科 学習成果

(1) ファッションの専門知識と専門技術の修得

学習成果の指標：GPAの目標達成率、各種検定試験の合格率、専門就職決定率

(2) 人間力を有している（汎用的能力の修得）

学習成果の指標：総合演習Ⅰ～Ⅳの成績評価、イベント参加者数、海外研修参加者数、企業研修参加者数、インターンシップ単位修得者数

GPAの達成目標は2.01以上とし、平成29年度生の達成率は88%、平成30年度入学生の達成率は81%であった。

GPA 分布（ファッション総合学科）

GPA	0	0.01～ 1.00	1.01～ 2.00	2.01～ 3.00	3.01～ 4.00
平成29年度入学生(60名)	0名	4名	3名	34名	19名
平成30年度入学生(63名) (1年次3・4期本試まで)	3名	5名	4名	28名	23名

各種検定試験については、全国平均合格率を上回ることを目標としている。各種検定試験の結果を以下に示す。3級レベルはほぼ全国レベルを上回っているが2級レベルは年度によっては全国レベルを大きく下回っている。特に色彩検定2級とファッション販売能力検定2級は下回っている。そこで色彩検定に関しては支援の方法を見直した結果、平成30年度には全国平均に達した。平成29年度以降は色彩検定1級にチャレンジする学生も出てきている。ファッション販売能力検定2級に関しては、学生が空き時間を使って自主的に検定の勉強をしているが、本学科に「ファッションビジネス」の分野を指導する専門の専任教員がないことが合格率の上昇しない要因の一つとなっていると考えられる。その対策として、非常勤講師の「ファッションビジネス」の授業の中に、検定対策の内容を導入していただくように依頼しているが、なかなか成果が上がっていない。今後はPDCAサイクルにしたがって、前年度より、良い実績を確立できるような対策を検討していく。

検定全国平均合格率と学内合格率 %は合格率 ()内は合格者/受験者数

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
PM技術検定 3級	全国平均	83.9%	83.6%	74.6%	83.8%	82.1%
	学内合格率	72.2% (13/18名)	100% (13/13名)	81.0% (17/21名)	87.5% (14/16名)	88.2% (15/17名)

PM 技術検定 2 級	全国平均	79.1%	77.0%	58.4%	76.3%	66.1%
	学内合格率	80% (4/5 名)	100% (2/2 名)	25.0% (1/4 名)	57.1% (4/7 名)	100% (6/6 名)
色彩検定 3 級	全国平均	70.6%	74.2%	73.5%	73.7%	72.1%
	学内合格率	82.2% (37/45 名)	75.9% (22/29 名)	91.7% (22/24 名)	86.5% (32/37 名)	75.8% (25/33 名)
色彩検定 2 級	全国平均	59.9%	67.0%	57.7%	61.3%	66.4%
	学内合格率	20.0% (1/5 名)	50.0% (4/8 名)	50.0% (1/2 名)	25.0% (3/4 名)	66.7% (4/6 名)
色彩検定 1 級	全国平均				35.6%	42.9%
	学内合格率				— (0/1 名)	33.3% (1/3 名)
FB 能力検定 3 級	全国平均		69.2%	63.7%		65.9%
	学内合格率		90.9% (10/11 名)	85.7% (6/7 名)		72.2% (13/18 名)
F 販売能力検定 3 級	全国平均	70.5%	70.2%	72.0%	71.6%	69.3%
	学内合格率	97.4% (38/39 名)	100% (13/13 名)	94.1% (32/34 名)	96% (24/25 名)	91.6% (33/36 名)
F 販売能力検定 2 級	全国平均	50.8%	46.7%	49.1%	49.3%	53.2%
	学内合格率	28.6% (4/14 名)	20.0% (2/10 名)	40.0% (2/5 名)	46.2% (6/13 名)	50.0% (3/6 名)
フォーモルスベ [®] シヤリスト 認定試験 プロンス [®] ライセンス	全国平均	91.9%	92.9%	90.7%	89.3%	89.9%
	学内合格率	100% (26/26 名)	84.6% (22/26 名)	96.2% (25/26 名)	97.4% (37/38 名)	92.0% (23/25)
マナー・プロトコ ール検定 3 級	学内合格率	95.5% (21/22 名)	81.8% (18/22 名)	70.8% (14/24 名)	92.0% (46/50 名)	48.8% (21/43 名)
語彙・読解力検定	学内合格率	64.3% (9/14 名)	30.8% (4/13 名)		75.0% (9/12 名)	

本学科では、上記に示す検定に合格すると 2 ポイントが取得でき、3 ポイントたみると 1 単位を取得できるという仕組みを作っている。科目名を「特別演習 I」「特別演習 II」（平成 29 年度以降は「検定演習 I・II」に科目名変更）として開講している。学生は決められた期間に申請する。特別演習（検定演習）I・II の単位修得者数は表に示すように、年度によって履修者数にばらつきがある。平成 27 年度は 28 名に対して、平成 29 年度は 60 名となっている。また、検定複数取得者数一覧表を見ると、平成 29 年度は、一人の学生が何種類もの検定にチャレンジしていることがわかる。多くの検定にチャレンジすることは、学科の教育目標である「人間力の育成」に繋がるものである。

特別演習Ⅰ・Ⅱの単位取得者数（履修者率）
 （平成29年度より検定演習Ⅰ・Ⅱに科目名変更）

	特別演習Ⅰ	特別演習Ⅱ
平成26年度入学生（65名）	30名（46.2%）	17名（26.2%）
平成27年度入学生（53名）	18名（33.9%）	10名（18.9%）
平成28年度入学生（65名）	33名（50.8%）	12名（18.4%）
平成29年度入学生（60名）	38名（63.3%）	22名（36.6%）

検定複数取得者数一覧

入学者年度		9種類	8種類	7種類	6種類	5種類	4種類	3種類	2種類	1種類	取得なし
25年度	人数	0名	0	0名	0	0	6	18	26	17	7
	割合	0%	0%	0%	0.0%	0%	8.7%	26.1%	37.7%	17.4%	10.1%
26年度	人数	0名	0	0名	1	3	4	20	14	12	10
	割合	0%	0%	0%	1.6%	5%	6.2%	31.3%	21.9%	18.7%	15.6%
27年度	人数	0名	0	0名	0	1	7	7	16	14	8
	割合	0%	0%	0%	0.0%	2%	13.2%	13.2%	30.2%	26.4%	15.1%
28年度	人数	0名	0	0名	0	1	3	19	18	19	5
	割合	0%	0%	0%	0.0%	2%	4.6%	29.2%	27.7%	29.2%	7.7%
29年度	人数	1	0	5	3	5	10	9	14	8	5
	割合	1.7%	0%	8.3%	5.0%	8.3%	16.7%	15.0%	23.4%	13.3%	8.3%

専門就職決定率は、70%を基準としている。ファッション総合学科では、縫製、パタンナー、デザイナーと同様にファッション販売職についても専門職として位置付けている。本学科の卒業生は、ファッションを総合的に専門的に学んでいることから、多くの卒業生が販売職から、バイヤー、エリアマネージャー、ディレクター（企画職）にステップアップしている。平成26年度入学生以降基準を達成している。

進路決定率は100%を目標としている。平成28・29年度は目標を達成している。

ファッション総合学科進路決定状況

入学年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度						
卒業生数	69	59	54	66	55						
進路決定数	67	97%	53	90%	54	100%	61	92%	53	96%	
就職者数	56	81%	50	84%	43	80%	53	82%	44	80%	
内訳	専門職	50	72%	46	78%	40	74%	48	74%	40	73%
	サービス職	2	3%	0	0%	2	4%	1	2%	2	4%
	事務	1	1%	2	3%	1	2%	3	5%	1	2%
	その他	3	5%	2	3%	0	0%	1	2%	1	2%
進学	11	16%	3	5%	11	20%	8	12%	9	16%	
未決定	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%	1	2%	
非希望	2	3%	6	10%	0	0%	3	5%	1	2%	

学習成果（2）の指標、イベント参加者数からは学生は十分学習成果を獲得できていると考えている。

年 度	内 容	参加 学生	総計
平成 26 年度	綿花大作戦	11 名	272 名
	第 18 回全国きものデザインコンクール	58 名	
	小学生とのイベント「おしゃれエプロンを作ろう」 小学生 66 名	53 名	
	ユニバーサル都市福岡 フェスティバル 2014	18 名	
	しおばる保育園保育士エプロンの製作	8 名	
	けご幼稚園お遊戯会衣装製作	2 名	
	短大コンソーシアム	21 名	
	大橋祭りファッションショー	12 名	
	綿花大作戦	19 名	
	卒業制作ショー（アクロス福岡）	78 名	

年 度	内 容	参加 学生	総計
平成 27 年度	綿花大作戦	11 名	295 名
	アンスティチュフランセ「きものリメイクワークショップ」	5 名	
	第 19 回全国きものデザインコンクール	56 名	
	小学生とのイベント「おしゃれエプロンを作ろう」 小学生 72 名	42 名	
	ユニバーサル都市福岡フェスティバル 2015 参加	6 名	
	岩田屋百貨店での販売とワークショップ	7 名	
	日暮里ファッションデザインコンテスト 2015	2 名	
	倉敷ファッションフロンティア 2015	2 名	
	福岡女学院大学との連携による綱引きのユニホームデザインとパター制作	9 名	
	けご幼稚園お遊戯会衣装製作	7 名	
	綿花大作戦（収穫）	2 名	
	第 4 回短大フェスファッションショー	30 名	
	卒業制作展（天神ソラリアゼファ）	69 名	
	ファッションウィーク福岡 2016	17 名	
	東急ハンズおよびラシック福岡での香蘭ブランド「香パン工房」の期間限定ショップ（販売とワ	30 名	

	ークショップ)		
--	---------	--	--

年 度	内 容	参加 学生	総計
平成 28 年度	第 20 回全国きものデザインコンクール	57 名	273 名
	装飾古墳熊本震災チャリティーイベント	10 名	
	地域連携みなみまちむすびファッションショー	29 名	
	小学生とのイベント「おしゃれエプロンを作ろう」 小学生 66 名	50 名	
	布の店スフレとのコラボレーション	22 名	
	しおばる保育園保育士エプロンの製作	15 名	
	けご幼稚園お遊戯会衣装製作	8 名	
	第 5 回短大フェス参加	5 名	
	卒業制作展（天神ソラリアゼファ）	66 名	
	サヌイ織物との産学連携事業作品展示	3 名	
	ファッションウィーク福岡 2017 ファッションショー	8 名	

年 度	内 容	参加 学生	総計
平成 29 年度	小学生とのイベント「おしゃれエプロンを作ろう」 小学生 72 名	42 名	208 名
	地域連携「南区こども大学」クッション製作	4 名	
	福岡三越ラシック福岡出店	17 名	
	しおばる保育園保育士エプロンの製作	8 名	
	けご幼稚園お遊戯会衣装製作	9 名	
	倉敷ファッションフロンティア 2017	7 名	
	博多織新作発表会「博多織求評会」展示	5 名	
	日南サンフレッシュレディー制服コンペ	37 名	
	卒業制作展（天神ソラリアゼファ）	66 名	
	ファッションウィーク福岡 2018 博多駅マイング 広場展示	12 名	

年 度	内 容	参加 学生	総計
平成 30 年度	小学生とのイベント「おしゃれエプロンを作ろう」	31 名	

小学生 76 名		195 名
地域連携「南区こども大学」クッション製作	5 名	
企業とのプロジェクト企画	14 名	
中国大連国際服飾紡織品博覧会展示とファッションショー	18 名	
中国大連東北アジア小中学校制服デザインコンテスト	2 名	
倉敷ファッションフロンティア 2018	5 名	
中国大連杯デザインコンテスト 2018	5 名	
けご幼稚園お遊戯会衣装製作	13 名	
KOUGEI EXPO参加 ファッションショーのフィッター	3 名	
三宅校区文化祭ファッションショー	27 名	
卒業制作展（天神ソラリアゼファ）	71 名	

海外研修、企業研修、インターンシップは授業科目として開講している。各科目の履修者数は以下のとおりである。平成 27 年度の海外研修はテロのために中止した。これらの科目は、ほとんどが 1 年次で履修している。海外研修、企業研修の履修者数は毎年変わらない数で推移している。インターンシップの履修者数は平成 28 年度から上がってきており、平成 30 年度は、31 名と大きく上昇している。しかしインターンシップ先での就職内定には結びついていないのが現状である。今後はインターンシップ先での就職内定率を上げることも目標としたい。

入学年度別海外研修履修者数

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
34 名	中止	22 名	25 名	25 名

入学年度別企業研修履修者数

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
37 名	29 名	30 名	33 名	31 名

入学年度別インターンシップ履修者数

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
4 名	7 名	11 名	12 名	31 名

<食物栄養学科>

○食物栄養学科 学習成果

- ・栄養士に必要なとされる知識、技能、態度および考え方を有している。
(学習成果の指標：全国栄養士養成施設協会認定実力試験および日本フードスペシャリスト協会認定試験)
- ・栄養の指導や給食の運営を行うために必要な実践的能力を有している。
(学習成果の指標：専門就職率(栄養士就職率))
- ・栄養士免許取得の学習を通して、教養、自活力、生活力を有している。
(学習成果の指標：進路決定率)

査定手法は、進路決定率に関しては100%目標を基準とし、専門就職率は、60%目標を基準としてPDCAサイクルに沿って点検・対策・実施をしている。

次に学習成果の査定結果を説明する。表は平成26年度から平成30年度に実施した両試験の結果である。

栄養士実力試験結果

	受験者	欠席数	判定 A		判定 B		判定 C	
平成 26 年度	41	0	16	39.0%	21	51.2%	3	9.8%
平成 27 年度	48	0	24	50.0%	16	33.3%	8	17.0%
平成 28 年度	44	0	13	30.0%	20	45.0%	11	25.0%
平成 29 年度	64	0	16	25.0%	36	56.0%	12	19.0%
平成 30 年度	54	0	16	29.6%	25	46.3%	13	24.1%

判定 A：栄養士として必要な知識・技能に優れていると認められる者

判定 B：栄養士としての知識・技能を修得しているが、なおいっそう資質の向上を期待される者

判定 C：栄養士としての知識・技能が不十分で、更に研鑽を必要とする者

平成26年度から平成30年度における栄養士実力試験結果はほぼ横ばい状態であることから、5年間における学生達の質的上昇効果はほとんど見られない。また全国平均からみても、平均値は5年間を通して下回る結果であった。毎年度末において、PDCAサイクルによる次年度の対策を行っているが、実りある対策手段が未だ見出されていないのが現状であることから、今までとは異なる対策を確立・実践することを考えなければならない。

フードスペシャリスト資格合格率

	受験者数	合格者数	合格率 (%)
平成 26 年度	50	32	64
平成 27 年度	40	27	68
平成 28 年度	38	16	42
平成 29 年度	66	29	44
平成 30 年度	49	30	61

専門フードスペシャリスト合格率

	食品流通・サービス			食品開発		
	受験者数	合格者数	合格率 (%)	受験者数	合格者数	合格率 (%)
平成 26 年度	1	0	0	2	0	0
平成 27 年度	1	0	0	3	0	0
平成 28 年度	2	1	50	2	0	0
平成 29 年度	0	0	-	0	0	-
平成 30 年度	0	0	-	0	0	-

フードスペシャリスト資格に関しては、過去 5 年間での推移を見ると、平成 28、29 年度を除いて約 6 割以上が合格しているが、全国平均に比較して、いずれの年度も下回っているのが現状である。また、専門フードスペシャリスト資格に関しては、学生にとって魅力が薄れていることもあり受験者数が低迷している。フードスペシャリスト資格に関する対策も P D C A サイクルにて検討しているが、有効な手段は見出されていないのが現状である。

進路決定率と専門就職率も学習成果として査定している。進路決定率は 100% を目標として指導しているが、目標値には達していないのが現状である。若干名の進路未決定者は、卒業後の追跡調査結果により進路が決定していることを確認している。

次の表は平成 26 年度から平成 30 年度間での進路決定率および専門就職率の割合を示した。

進路決定率および専門就職率

	進路決定率 (%)	専門就職率 (%)
平成 26 年度	96.1	65.2
平成 27 年度	86.5	74.4
平成 28 年度	95.9	58.7
平成 29 年度	97.0	77.4
平成 30 年度	100	82.0

進路決定率に関しては、平成 26 年度から平成 29 年度間において目標基準を下回っているが、平成 30 年度においては、2 月にはすでに 100% となった。併せて専門就職率に関しては、平成 28 年度で若干減少したが、平成 26 年度から平成 30 年度間を通してこの本学科が目標としている 60% を上回っている。とくに平成 30 年度においては、専門就職率は 82% と高水準を達成した。このことは、年度末における P D C A サイクルによる検討が実を結んだものと自負できる。今後もこの現象を継続することは必須であり、所属教員の一致団結力を継続することも必須である。

< 保育学科 >

○保育学科 学習成果

- (1) 保育における「実践力」(知識・技術を活用する力)を有している。
- ・保育者として実践する上で必要な知識を習得している。
 - ・保育者として実践する上で必要な技術を習得している。
 - ・保育現場の様々な具体的業務を担当できる。
 - ・子どもや保護者にわかりやすく伝えることができる。
- (2) 保育における「協働力」を有している。
- ・目的意識を持って保育の仕事をするができる。
 - ・計画を持って保育にあたることができる。
 - ・他の保育者と協力して保育をするができる。
- (3) 保育における「たい力」(体力・耐力・対力)を有している。
- ・幼稚園・保育所・児童福祉施設といった専門機関で職員として働くことができる。
 - ・一年を通して働くことができる。
 - ・いかなる困難にも前向きに仕事をするができる。

学習成果を測定する仕組みは次のとおりである。

- (1) 「実践力」については、「単位認定試験での評価(量的データ)」「就職先での指導案等を作成し実践する能力の評価(量的データ、質的データ)」「就職先訪問における聞き取り(園、本人と面談)(量的データ、質的データ)」
- (2) 「協働力」については「学科行事・体育大会・学園祭の各種委員会活動における学生の動きについて、アンケート調査や各教員の評価(質的データ)」「卒業後研修(新任者保育者研修会)におけるアンケート調査(質的データ)」「就職先訪問における聞き取り(園、本人と面談)(量的データ、質的データ)」
- (3) 「たい力」については「就職決定率(量的データ)」「在学中2年間の出席率(量的データ)」「卒業後研修(新任保育者研修会)アンケート(質的データ)」

単位認定試験の評価の査定は量的指標であるGPAにより行っている。本学では平成28年度以前の入学生は科目の評価を300点満点に換算した独自のGPA(K-GPA)を全学で用いていた。査定の際の基準としては、K-GPA得点180点以上が50%以上であること、150点未満の学生をできるだけ減らすこと、平成29年度以降はGPA1.60未満の学生を減らすよう努力を行っている。近年の結果については以下のとおりである。

単位認定試験の結果(300点満点の人数分布)

H27年度 入学生	300～270	269～240	239～210	209～180	179～150	150未満	計
1 年前期	44	62	23	27	9	13	178
1 年後期	33	51	33	32	11	14	174
2 年前期	26	46	38	37	21	9	177
2 年後期	43	35	35	33	20	12	178
H28年度 入学生	300～270	269～240	239～210	209～180	179～150	150未満	計
1 年前期	29	47	30	26	18	10	160
1 年後期	27	34	39	24	13	17	154
2 年前期	30	30	47	26	20	10	163
2 年後期	31	46	31	26	15	6	155

単位認定試験の結果(GPA4.00満点の人数分布)

H29年度 入学生	4.00～3.60	3.59～3.20	3.19～2.80	2.79～2.40	2.39～2.00	1.99～1.60	1.60未満	計
1 年前期	5	22	28	39	19	19	12	144
1 年後期	4	23	34	34	25	11	7	138
2 年前期	14	27	32	29	26	9	4	141
2 年後期	2	32	45	27	24	6	5	141
H30 年度 入学生	4.00～3.60	3.59～3.20	3.19～2.80	2.79～2.40	2.39～2.00	1.99～1.60	1.60未満	計
1 年前期	8	31	30	33	18	11	12	143
1 年後期	0	26	33	23	23	19	16	140

毎期の試験結果を参考に、学科会議及び年度末の進級指導会議・卒業認定会議で検討し、学習成果を高める努力を行っている。

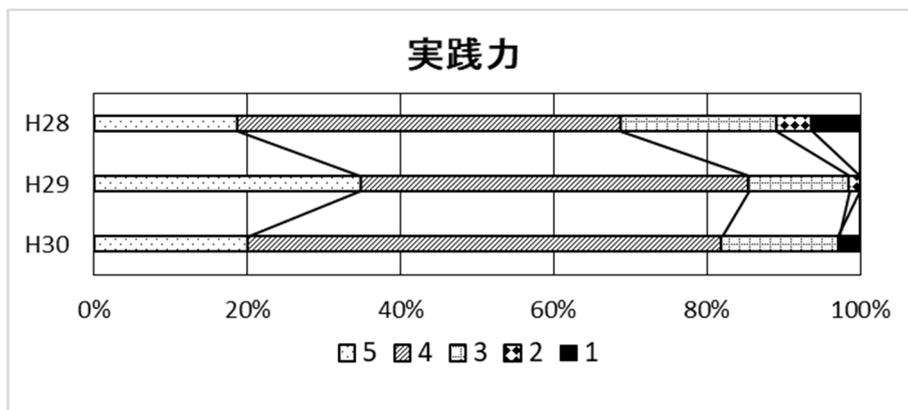
GPAは「保育学科賞」における成績優秀者表彰及び成績アップ者表彰の基準にも使用している。

「就職先における指導案等作成の実際」の評価については、質的データになるが、訪問先訪問における聞き取り時に行っている。聞き取り結果については、学科会議、学科実習委員会、教職課程委員会で共有し、科目での指導に活用している。今後の課題として指標に「指導案作成」をあげているが、それぞれの園による担当業務分担の違いがあるため、指標を「指導案作成」に限定するのではなく、書類作成等にするなど、指標の変更を行いたい。

「就職先訪問における聞き取り」毎年8月から9月にかけて保育学科所属教員において卒業生就職先訪問を行い、聞き取り調査等を実施しており、量的データとして基準を設けている。査定基準としては基準4以上の卒業生が70%以上であることを設定している。

基準5	・園における保育方針を理解しつつ、自分の保育技術を適切に活用することができる。
基準4	いずれか1つに該当 ・保育業務を行う上で特に問題はない。 ・新卒の保育者として仕事をすることができる。 ・足りないものはあるが、前向きに努力している。
基準3	いずれか1つに該当 ・保育者として最低限の仕事はできているが、保育実践や業務についてはこれから現場で教えていく必要がある。 ・子どもたちにわかりやすく説明することができない。
基準2	社会人として資質の部分で指導が必要。
基準1	園において支障をきたしている。

評価結果として、平成29年度卒業生、平成30年度卒業生については基準4以上の卒業生が70%以上という目標値を達成している（次図）。



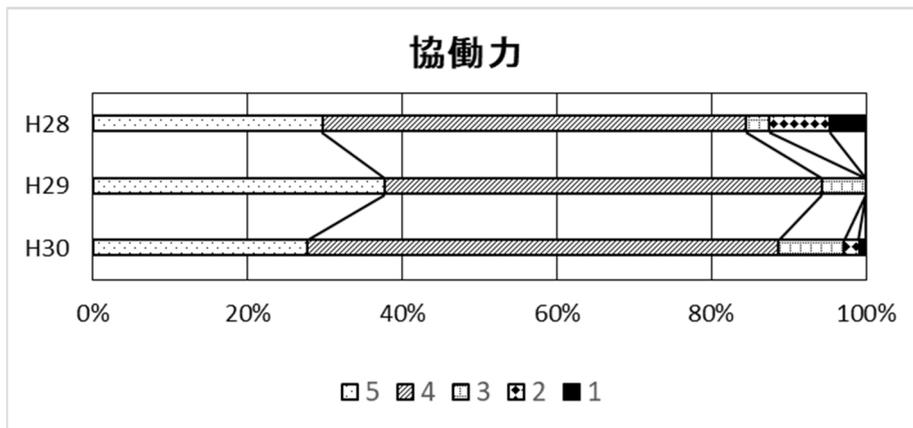
学習成果(2)「協働力」の査定については、①「学園祭・各種委員会活動における学生の動きについてアンケート調査や教員による評価」②「就職先訪問における聞き取り」③「卒業後研修（新任保育者研修会）におけるアンケート調査」で行っている。①③は主に質的なデータとなるが、学科会議で共有し、各科目の授業で活用している。「学園祭・各種委員会活動における学生の動き」については、「保育学科賞」の表彰項目に、委員活動の項目を設けている。

「協働力」についての②「就職先訪問における聞き取り」調査の結果では次の評価基準を設け、基準4以上の卒業生が70%以上であることを目標としている。

基準5	いずれか1つに該当 ・園における保育方針を実践的に理解し、ねらいを持って保育を行うことができる ・見通しを持って保育をすることができる ・チームにおいて自分の役割を理解し、協力して保育にあたることができる
基準4	いずれか1つに該当 ・保育業務を行う上で特に問題はない ・新卒の保育者として仕事をすることができる ・足りないものはあるが、前向きに努力している
基準3	保育者として最低限の仕事はできているが、以下の点で今後改善が必要（いずれか1つに該当） ・教職員全員でチームであることを意識できていない ・当番や役割による仕事を行うことができていない ・指示を素直に受け止めない
基準2	社会人としての資質に問題があり指導が必要である ・遅刻が多い。提出物の期限を守らない。

基準1 園において支障をきたしている。

評価結果は基準4以上の卒業生が70%以上という目標値を達成している（次図）。



学習成果の査定（3）「たい力」は、「就職決定率」や「2年間の出席率調査」「卒業後研修でのアンケート調査」「就職先訪問における聞き取り」により評価している。

就職決定率は量的指標であるが、就職決定率100%を目標に努力している。

過去5年間の就職決定率

	希望者数	内定者数	内定率
H27.3卒	151	150	99.3%
H28.3卒	144	143	99.3%
H29.3卒	162	161	99.4%
H30.3卒	149	148	99.3%
H31.3卒	135	135	100%

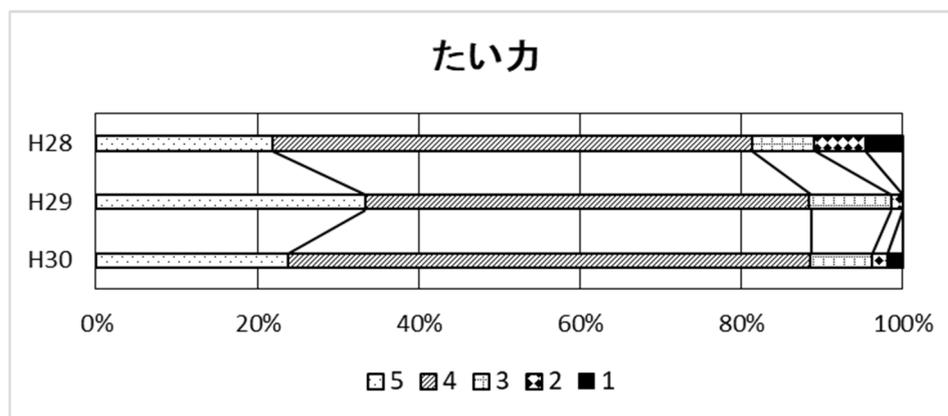
授業出席率で問題になる学生の傾向としては、高校時に欠席が多い、人間関係にまずき転校を余儀なくされた等があり、入学後本学においても同じような悩みを抱える者が多く、結果として長期欠席に結びつくことがある。対策として、年度初めの学科会議において、入学時の資料から指導が必要と考えられる学生には、教職員において共通理解し、注意深く見守るよう心がけている。しかし、残念ながら指導が及ばず欠席の多い学生、長期欠席者、休・退学者が存在していることは、支援のあり方について一層の検討が必要な項目である。出席率は授業開始以降3週毎に集計しクラスアドバイザーが確認を行っている。出席率100%の学生には賞（「精励賞」）を授与することとしており、このことを目標に頑張っている学生がいる。

「卒業後研修でのアンケート調査」は自由記述が中心となっている。研修に参加しての感想、今の悩み、学生時代に学んでおくべきことについて記述を求めている。今後は「たい力」の量的データとして測定できるようアンケートの改良を行いたい。

「たい力」についての「就職先訪問における聞き取り」調査の結果では次の評価基準を設け、基準4以上の卒業生が70%以上であることを目標としている。

基準5	いずれか1つに該当 ・ 毎日の経験を次に活かすことができている ・ 失敗を次に活かすことができている ・ 成長が期待でき、園として将来のために新しい仕事または多くの仕事を与えて経験させている
基準4	いずれか1つに該当 ・ 保育業務を行う上で特に問題はない ・ 新卒の保育者として仕事をすることができる ・ 足りないものはあるが、前向きに努力している
基準3	保育者として最低限の仕事はできているが、以下の点で今後改善が望まれる ・ 保育に集中できないことがある ・ プライベートに意識が向きすぎる ・ 体調管理がうまくできない ・ 同じ失敗を何度も繰り返す ・ 注意を受け入れない
基準2	社会人としての資質に問題があり指導が必要である ・ 遅刻が多い。提出物の期限を守らない。
基準1	園において支障をきたしている。年度途中で退職した

評価結果は基準4以上の卒業生が70%以上という目標値を達成している（次図）。



<ライフプランニング総合学科>

○ライフプランニング総合学科 学習成果

(1) 専門知識の修得

・自らの適性に応じたメジャー（専門教育）の学びを段階的に深めていき、専門的な知識を修得する。

(2) 多様な分野の学習と汎用的スキルの修得

- ・多様な分野の学習に積極的に取り組むこと。
- ・地域チャレンジプログラムやインターンシップへの参加を通して、地域で活躍するための知識と汎用的スキルを身につける。
- ・各種資格検定試験にチャレンジし、自らの資質の向上に努める。

まず、学習成果（1）（2）の総合的な測定指標として、GPA2.3以上および地域チャレンジ1単位以上を含むチャレンジ科目2単位以上取得を設定している。また、学習成果（1）専門知識の修得は、メジャーの完成、GPAの目標達成率、各種資格検定試験合格者数によって、学習成果（2）多様な分野の学習と汎用的スキルの修得は、メジャーおよびその他の授業受講、地域チャレンジ参加者数および地域チャレンジ単位取得者数、各種資格検定試験受験者数および検定チャレンジ単位取得者数、インターンシップ参加者数およびインターンシップによる地域チャレンジ単位取得者数、プログテスト結果によって把握している。

リニューアル後初めての卒業生である平成30年度卒業生（卒業延期者を除く）の各メジャーの完成者数は、以下の表に示す通りであり、全体の61.5%がこの目標を達成した。

	登録人数	メジャー完成人数	メジャー完成割合
一般事務	43名	20名	46.5%
医療事務	22名	15名	68.2%
公務員	5名	5名	100%
観光・ブライダル	19名	18名	94.7%
ファッション	20名	14名	70.0%
インテリア	16名	7名	43.8%
CG・ウェブ	5名	1名	20.0%

また、GPA2.3以上という学習目標を達成した学生は95名で、全体の73.1%であった。

各種資格検定合格者数については、各資格担当教員が、受験率と合格率を調査しており、卒業時には個別の学生がいくつ資格を取得しているか調査している。カリキュラム上、資格に対応した科目が複数あり、学生個別で修得するユニットが異なるが、基本的には2年間で複数の資格が取れるカリキュラムとなっている。以下の表には平成29年度のカリキュラム変更後を含む平成26年度以降の資格・検定取得状況を示し

ている。

資格・検定名称	級	卒業年度					
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
介護職員初任者研修課程		7	4	2	5		28年度終了
フードコーディネーター	3級	6	5	7	9		28年度終了
ビジネス実務士		19	17	12	23		29年度終了
情報処理士		6	7	4	6		29年度終了
上級情報処理士		2	2	1	0		29年度終了
日商簿記検定試験	2級	0	0	0	1	0	
	3級	7	7	2	10	9	
秘書技能検定試験	準1級	1	1	0	0	0	
	2級	25	8	19	4	18	
	3級	0	2	0	1	2	
福祉住環境コーディネーター検定	3級	0	0	1	3	0	
リビングスタイリスト	1級	0	0	0	0	0	
	2級	4	5	0	2	0	
	3級	0	0	1	0	0	
内部管理責任者		-	-	-	1	-	
(正会員)一種外務員		-	-	0	4	2	
(正会員)二種外務員		1	1	-	-	1	
特別会員一種外務員		1	0	0	0	0	
特別会員二種外務員		1	2	2	1	1	
サービス接遇実務検定試験	1級	0	0	0	1	0	
	準1級	0	0	0	0	0	
	2級	0	10	1	1	3	
	3級	0	0	0	1	0	
保険請求事務技能検定	1級	3	0				28年度より医療事務検定に移行
	2級	43	31				
医療事務検定試験			1	3	12	16	
マイクロソフトオフィススペシャリスト Word		0	0	0	0	2	
マイクロソフトオフィススペシャリスト Excel		10	9	3	0	9	
Excel表計算技能検定	2級	0	0	0	0	0	
	3級	0	0	1	1	0	
日本語ワープロ検定	初段	0	1	0	0	1	
	1級	1	1	2	5	4	
	準1級	5	2	3	5	3	
	2級	3	7	6	8	11	
	準2級	1	3	4	8	7	
	3級	0	0	1	1	1	
ファッション販売能力検定試験	2級	0	0	0	0	0	
	3級	1	3	0	2	1	
AFT色彩検定	3級	1	5	1	4	3	
ピアヘルパー認定試験		8	7	13	10	9	
アシスタント・ブライダル・コーディネーター検定試験		7	5	7	4	6	
実用英語技能検定	2級	0	0	0	0	0	
	準2級	4	0	0	0	0	
	3級	0	0	0	0	0	
ファイナンシャルプランナー	2級					5	
	3級					0	

平成 29 年度以降のカリキュラムでは、地域チャレンジおよび検定チャレンジという科目を設け、外部での活動や検定試験に合格するとポイントが付与され、そのポイントに応じて単位と互換する仕組みを導入した。この制度は、学生自分の学習成果を可視化する一助となる。チャレンジのプログラムも、例えば平成 30 年度は年間で 20 プログラム以上実施されており、学生が 2 年間のうちに様々なチャレンジができる仕組みとなっている。

平成 30 年度卒業生のうち 1 つ以上の地域チャレンジプログラムに参加した学生は全体の 92.4%、地域チャレンジ単位取得者数は 47 名で全体の 36.1%であった。これに対して、検定チャレンジのポイント対象の各種資格検定試験合格者数はのべ 114 名であり、検定チャレンジ単位取得者数は 11 名、全体の 8.5%であった。なお、平成 29 年度入学生における地域チャレンジおよび検定チャレンジの単位を取得した人数と取得率は下記の表のとおりである。

科目名		取得者数	取得率 (%) (平成 31 年 2 月現在)
地域 チャ レンジ	I	29	22.3
	II	9	6.9
	III	5	3.8
	IV	2	1.5
	V	1	0.8
	VI	1	0.8
検定 チャ レンジ	I	7	5.4
	II	4	3.1
	III	0	0
	IV	0	0
	V	0	0
	VI	0	0

これらのチャレンジプログラムは各チャレンジ参加で得られるポイントが予め付与されており、一定のポイント数（45 ポイント）に達した時点で単位を認定する仕組みである。従って、地域チャレンジに参加あるいは検定試験に合格したとしても、一定のポイントを積み上げなければ単位として認定されない。今後、この制度がより学生の励みとなるよう、さらなる周知と参加を促す方策を工夫したい。